

114
A3920
1



家作制限ノ議

伏テ惟ミルニ火災保険官行ノ旨第一罹災ノ人民
ヲシテ貧困流離ノ患ヲ免カレシメ第二家屋抵當ノ金利
ヲシテ廉ナラシメ第三出火ノ際臨機家屋ヲ破潰シ容易
消防ノ功ヲ奏スル等是ナリ此旨ヲ達スルカ為ニ家屋所
有主ヨリ毎ニ保険料ヲ徴シ一朝火災ニ罹ルトキハ券面
ノ補償金ヲ其主ニ給與ス蓋シ本邦未曾有ノ業ニシテ日
後成績ノ著大ナルハ今ヨリ固ク信シテ贊襄スル所ナリ然
リト雖罹災人民ヲ救フニ孜々トシテ人民罹災ヲ免カル
、ノ計ヲナサ、レハ保護ノ至レル者ニアラス今ハ火災
預防ノ計畫ヲナサントスルニ新築家屋ハ材ノ良否構造
ノ如何ニ拘ハラス其屋ハ瓦金属ヲ以テスヘキ制アラ
シニハ目下ノ情勢ニ適シ将来物議ナキヲ保スト雖而モ

大正十一年四月
隈侯爵邸寄贈



板屋ニ代ルニ瓦金屬ヲ以テスルハ唯是散火ノ預防ノミ
其焰煙天ニ漲キリ暗風地ヲ捲ノ時ニアタリ依然灰燼ヲ
免カレサル者ナリ若夫火災保險ノ業會社ノ發企ニ出ル
トキハ專ハラ人情ノ所好ニ投シ眼前ノ贏利ヲ計ル亦論
ナシ不然シテ之ヲ行政ノ一部ニ置官ニ於テ管理セハ繼
令今日ノ情勢ト相合サル處アルモ能ク百年ノ計畫ヲナサ
ルヘカラス小官等情ヲ既往ニ遡ツテ現今ニ徴シ以テ
將來ヲ推ニ左ノ制限アラントヲ冀圖ス

府下十五區ノ裡最モ繁華ノ地位ヲ占メ商業ノ贏利ヲ得
ル街衢ヲ擇ンテ之ヲ劃シ此地ニ住スル者ノ家屋ヲ新築
セシニハ煉瓦造土藏造塗屋造ノ裡ニアラスンハ決シテ
之ヲ許サ、ルヘシ

芝區幸橋外堀通り神田橋マテ美土代町通り萬世橋マテ

神田川通り西國濱町靈岸鳥島橋ヨリ三代町久安橋堀
通金六町紀伊國橋堀通り新橋マテ一圓芝區席ノ門外櫻
田本郷町通り新橋マテ表通り神田須田町ヨリ小川町神
保町通り俎橋マテ表通り芝區新橋ヨリ金杉橋マテ表通
リ

曩者幕政ノ時大火アリ爾後資カアル者其分ニ應シ必
ス土藏造塗屋造ノ内ヲ以テ新築セヨト令セリ此時ニ當
リ專ハラ苦情ヲ唱セシハ消防ニ從事スル輩ノミ固ヨリ
取ニタラス今猶下谷區等ニ當時ノ土藏屋アリテ比年火
災ヲ免カル、者ハ特ニ此令ヲ遵守セシニ由レリ今マ目
下ノ情勢ニ拘着セス能ク百年ノ利害ヲ計較シ繁華ノ地
區ヲ劃シテ家屋ノ制限ヲサハ火災ノ都度面目ヲ改良
シ竟ニ人民ヲシテ罹災ノ慘毒ヲ免カレシムルマ更ニ頭

ヲ回ラスヲ待サルヘシ況ンマ家屋ハ概シテ五十年ヲ保
ツ者トスレハ火災慘憺ノ媒ナキモ新陳交代シテ漸々堅
牢家屋ヲ並フル必ラス五十年ヲ出サルヲマ是小官等
地區冷熱ヲ劃シ家作制限ノ舉ヲ冀圖スル所又ナリ
有難者曰廢造ノ家屋燒燼シテ補償金ヲ得ルモ固ヨリ少
數ノ金ナリ此少ナキ金額ヲ得テ其制ヲ奉スル程メテ艱
難ナリ於是乎建築相當ノ金ヲ貸與シ年賦還納ノ法ヲ設
クルニ非スンハ目下ノ情勢ニ徴シテ必ラス施行シ得
カラサル者也ト小官等以為ラク年賦割濟ノ金ヲ貸與ス
ルハ善良ノ法ニ似リト雖而モ之ヲ徵收スル太々難シ帝
ニ徵收ノ困難ナルカ為ノミナラス家作ノ制限ニ就テハ
決シテ貸與ヲナサル亦妨ケナシトセリ
抑モ東京ハ本邦ノ首府ニシテ繁華四方ニ冠タリ今此繁

華ノ中央ヲ擇ラミ家作ノ制ヲ立ルハ固ヨリ家屋ヲ論シ
テ其人ヲ問ス故ニ寒酸ニシテ苦情アル者自カラ去リ富
饒ニシテ苦情ナキ者自カラ来ル固ニ其分ノ宜シキナリ
於是乎熱鬧ノ地一箇板屋ヲ見ス冷澹ノ境以々茅檐ニ逢
モ亦自カラ火事稀少ナレハ大ナル害ナカルヘシ又或ハ
此令ノ出ルニ及ハ、街衢隨處ニ空地ヲ見ントスル過慮
ノ説アリト雖決シテ左ニアラス元來資カアル者畢フテ
繁華ノ衢ニ出ルハ其得ル所ノ大ナルニ由レリ豈其得ル
所其費マス所ニ充テ餘裕アレハ誰カ此制ヲ奉セサル者
アラシマ誰カ此途ニ當ルヲ欲セサル者アラシマ況ンマ
家屋堅固ナレハ保険料ノ割合ヲ減シ永遠ノ福祉ヲ暢達
スルヲマ蓋シ是等ノ説ハ強テ排撃ヲ要セスシテ可ナリ
別ニ其説ノ實歷ニ出テ此制ヲ難スル者アリ京橋以南ノ

煉瓦屋是ナリ

煉瓦屋建築ノ經費總額九拾萬六千貳百六拾三圓拾三匁八厘其徵收高三拾五萬九千四百貳拾貳圓貳拾匁其拂下未済家屋ト賣下家屋ノ代價未済ト合高五拾四萬六千八百四拾圓九拾三錢八厘此内二等三等家屋拂下未済高九萬三千六拾貳圓七拾五匁五厘此空屋地代豫算一ヶ年四千八百圓此他七年六月ヨリ十一年七月マテ地代區費下渡シ高壹萬五千八拾六圓拾八匁九厘夫此計查ニ據レハ建築以來數年ノ久シキヲ經テ其徵收セル金高ハ原價三分ノ一半ニ過ス而シテ其間官民ノ困難實ニ言ヘカラサル者アリ縱令將來之カ全價ヲ徵收スルモ地代ト區費ハ全ク官ノ損失ニ係レリ況ンマ殘餘ノ家屋拂済ノ期ナク隨テ空屋地代モ亦其額ヲ預算シ難キヲマ當時家屋ノ堅

牢ヲ計リ翻テ官民ノ困難ヲ来ス蓋シ其由アリ第一土地ノ氣候ニ應セス第二商業ノ景況ニ適セス第三家屋ノ代價廉ナラス第四厨下物置等ノ建築其制アリテ經費亦尠ナカラス凡ソ此數者向ノ困難ヲ生スル原因ナリ抑モ年賦貸與ノ法アルモ猶且此ノ如シ況ンマ貸與ノ法ナクシテ家作ノ制ヲ立ル者ヲマト是難カ閱歷ノ説ナリ小官等向ニ所謂年賦金ヲ徵收スルハ困難也其ト彼ノ煉瓦勘定ニ於テ亦之ヲ証スルニ足レリ然而シテ家作ノ制ヲ立ルニ貸金ヲナサルハ不為シテ可ナルノ目斗アルニ由レリ必シモ徵收ノ困難ナルカ為ニアラス且京橋以南ノ跡ニ就テ將來ノ事ヲ制治セントスルハ甚タ違ヘリ何トナレハ彼ハ煉化石一種ヲ限り廣狹其制アリテ一ニ官設ニ係レリ此ハ煉瓦土藏塗屋ノ三種ヲ制トシ廣狹適宜ニシ

テ固ヨリ民設ニ属マリ彼ハ商業ノ景況ニ適セス竟ニ人
情ニ背ケリ此ハ各自商業ニ應シ構造其所好ニ任ス人情
背馳ノ理アルナシ況ンマ一地區ヲ劃シテ一時ニ改作
スルト漸ヲ以テ改造ノ正鵠ヲ達スルトハ其施為霄壤ノ
隔アルヲマ然而シテ建築經費ノ點或ハ難者ノ鳴攻ヲ免
カレスト雖之ヲ辨スル固ヨリ饒舌ヲ要セス向ニ所謂此
制ノ精神ハ家屋ヲ堅固ニシテ将来火災ヲ剷絶スルニア
レハ其家ヲ論シテ其人ヲ問ス故ニ寒酸ナル者ハ冷澹ノ
地ニ轉シ富饒ナル者ハ熱鬧ノ衢ニ移リ到底府下ノ中央
ハ豪高鉅工ノ淵藪トナルハ專ハラ此制ニ期囑スル所ナ
リ蓋シ百年ノ利害ヲ計較スル前後畫一ニシテ經濟ノ眞
理ニ適スルト不適ト處置ノ困難ナルト困難ヲラサルト
ニ至リテハ實ニ日ヲ同クシテ語ルヘカラサル者ナリ

此理ニ由リ繁華ノ地ヲ劃シ家作ノ制限ヲ行ハントスル
ニ最以テ關係ノ大ナル者アリ道路更正是ナリ夫レ将来
府下道路更正ノ事ナクシハ可ナリ苟シクモ之アリトセ
ハ早ク便否ヲ究查シ更正線路ヲ預定マサルヘカラス西
人有説石橋ハ不朽ナリ然レ氏先見ニ乏シクシテ之ヲ架
セハ翻テ不朽ナルカ為ニ其不便モ亦大ナリト豈唯石橋
ノミナランマ家作ニ於テモ顧慮セサルヘカラス是ハ官
等情ヲ前途ノ便益ヲ思惟シ敢テ管見ヲ吐露スル所以ナ
リ頃者家屋ノ種類坪數ヲ調査セシニヨリ種々ノ卷説ヲ
未マリ或ハ保険ノ質專ハラ會社ニ屬スヘキ者也トシテ
其説ヲ雜誌ニ登記シ人情方向ニ迷フノ状アリ故ヲ以テ
實際ノ施行ハ事務ノ都合ニヨリ自ラ遲速アルベシト虽
一日モ早ク火災保険官行ノ音ヲ布告セラレントテ慾冀

ス小官等區々ノ至ニ堪ス謹取進止

東京府火災保険取調委員

明治十二年十月

伊藤 徹
河出良二

大隈大藏卿閣下

414
A 3870
2

小官等謹テ書ヲ

閣下ノ下執事ニ奉ル小官等伏テ惟ルニ天下百般ノ事必ス報ク其機ヲ察シテ之ヲ施サ、ルヘカラス然ラスニハ其事細小其實善美ナリト雖而モ其力ヲ勞スルヤ多ク其功ヲ奏スルヤ少ナシ或ハ儘全ク奏功ノ期ヲ見ル能ハサルハ今古一般ノ勢必ス知者ヲ俟テ後ニ識ラサルナリ況ヤ其事重大其實穩當ナラサルモノヲヤ小官等去ル十二年五月火災保険取調委員ノ下列ニ加リシヨリ鞠躬從事スル此ニ六百有餘日漸ク該條例等脱稿ノ期ニ及ヘリ情ヲ按スルニ火災保険ノ業極テ重大ニ涉リ殊ニ本邦未曾有ノ事ニシテ且其官行ノ主義タル

大隈正
大隈正
侯爵邸寄贈

3220
二

未全ク今日ノ民情ニ適スルモト謂ヘカラス何
トナレハ世人既ニ保險ノ性質ヲ論シ往々官行ハ
不妥當也ト思ヘリ今夫其事重大ニ涉リ其實民情
ニ適セサレハ之ヲ舉行スルノ困難預シメ知ルヘ
キナリ然レモ民情ハ時アリテ變ス其變スルヤ他
ノ刺衝ニ由レリ是ヲ平常酸味ヲ厭フ者熱症ニ遇
テ之ヲ嗜ムニ譬フ故ニ酸味ヲ興ント欲スレハ其
患熱ノ時ヲ察セサルヘカラス請嘗ニ其時機ヲ論
セン近者東京府下ニ落屋町松枝町柳町等ノ數大
火アリ大坂府下并横濱港等ニ於テモ亦然リ故ヲ
以テ各地人民ノ火災ニ酸鼻スル未タ今日ヨリ其
甚キハ非ス故ニ保險官行ノ旨ヲ公示セラレニ
ハ實ニ今日ノ時ヲ以テ然リトス今夫人民ノ火災ニ

酸鼻スル猶彼ノ熱ニ遇テ煩渴スルカ如ク決シテ
此情ノ久シキヲ保ツモノニ非ス然ルニ荏苒此時
ヲ失ハ、實ニ復タ期スヘキノ日十カルヘシ是
官等憂慮シテ須臾モ措ク能ハサル所以ナリ猶且
之ヲ其事實ニ徴セン曩者本府ニ於テ落屋町焼失
跡ニ火災預防ノ事業ヲ起サント欲シ昨十三年一
月臨時府會ノ議ニ付セシニ容易可決シ以テ政府
ニ申請スル所アリ其間時日ヲ經過シ同年六月ニ
至リ再ヒ通常會確定ノ議ニ付セシニ何ソ圖ラン
曩日可決セルモノ今日否決スル所トナラントハ
蓋シ僅々數閱月ニシテ同一議負ノ同一事項ヲ議
スルニ其議決ノ前後反對ニ出ルヤ他ナシ全ク火
災ヲ怖ル、ノ熱情時日ヲ經テ漸ク冷却ニ歸スル

カ故ナリ推テ之ヲ論スレハ去月本府第二拾七號
布達ヲ以テ防火線路ヲ定メ家屋ノ制限ヲ設ケシ
カ如キ實ニ本府未曾有ノ嚴法ニシテ平時ニアリ
テ容易施行シ得ヘキ事ニ非ルモ今日一箇ノ苦情
ヲ聞サルハ全ク人民大火ヲ怖ル、ノ感觸太々甚
シキ時機ニ投スレハナリ是ニヨリ之ヲ觀レハ天
下百般ノ事必ス能ク其時機ヲ察シテ之ヲ施サ、
ルヘカラス況ンヤ本邦未曾有ノ保險官行ニ於テ
ヤ前頭ノ事實ヲ以テ今日ヲ觀ルニ豫メ保險ヲ施
行セントスル各地ハ何レモ不測ノ大火ニ罹リ實
ニ民情一變時到リ機熟ス何ノ顧慮スル所カ之
ラシ論者曰時機ヲ論スレハ固ヨリ當ニ然ルヘシ
ト雖而モ此ノ如ク數回ノ大火アル時ハ保險局ノ

得失相償サレヲ奈何シ先ツ火災豫防法建築條例
消防改良法等ヲ精査實行シ將來大火ヲ防止スルノ
目的ヲ定メ而シテ保險ノ事以テ議スヘキ也ト此
說一理ナキニ非スト雖此三項ノ法定ニ究査其當
ヲ得ルハ極テ難シ何リ邊ニ之ヲ實行スレヲ得ヘ
ケンヤ果シテ此說ノ如ク豫防周窟ニ建築堅牢ニ
消防自在ニシテ火災ノ虞尤モ少キ正鵠ニ達セハ
何リ故テ官ノ保險ヲ要セン凡ソ利ノ在ル所ハ
民ノ歸スル所ナリ故ニ火災扶疎ニシテ保險料ノ
賤カラシヨリハ寧ロ保險料ノ貴キモ火災頻數ノ
時ヲ以テ施行スルノ容易ナルニ如カス且ソ保險
料ノ割合ハ多年罹災ノ實數ニ準シテ計査スルモ
ノナルヲ以テ僅々數回ノ火災未タ始終ノ得失ヲ

判スヘカラス最モ消防法等ノ事固ヨリ保險ノ行
否ニ論ナク其改良ヲ計ラサルヘカラス豈ニ之ヲ
行フ其時機ヲ撰マシヤ豈ニ是等ノ事ヲ以テ民心
歸向ノ機ニ換フヘケンヤ是故ニ先ツ保險條例ヲ
公布セラレ而シテ漸次他ノ事項ニ及フモ亦決シ
テ遅カラサルヘシ抑モ保險ノ事ノ如キ發令ノ後
之ヲ實踐スルニハ必ス数月ノ猶豫ナクンハアラ
ス今ニシテ此發令アレハ之ヲ施行スルノ期ハ數
箇月ノ後一在リテ拾モ火災技疎ノ候ナルカ故ニ
施行ノ便會計ノ利實ニ一舉兩得ト謂ヘシ然ルニ
發令ノ期遷延シ施行ノ時遅緩スレハ當ニ施行ノ
不便會計ノ不利ナルノミナラス其民心ニ閉スル
ヤ蓋シ少小ニ非ルヘシ冀クハ断然保險ノ行否ヲ

決定セラレ縦令ヒ此機ヲ失スルモ行フヘカラス
トスレハ則之ヲ止ノミ然ラスレテ苟モ行フヘシ
トスレハ今日之ヲ公示シ以テ民心ヲ一定セラレ
ンコトヲ小官等夙ニ當談ノ負トナリ竊ニ機會ノ至
ルヲ觀察シ區々ノ心之ヲ默過スルニ思ヒス敢テ
尊嚴ヲ冒瀆ス伏請
閣下ノ察納ヲ賜ハラシテ謹取進止

東京府火災保險取調委員

明治十四年三月十二日

一寺属 伊藤 徹
六寺属 河出良二 河出

大隈参議閣下

